

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401095		
法人名	サテラホーム有限会社		
事業所名	グループホームサテラホーム		
所在地	北海道札幌市西区発寒11条4丁目5—1		
自己評価作成日	平成26年2月2日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170401095-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170401095-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・カラオケ・カルタ、スタッフ独自に考えたゲームなどで入居者様が日常生活を生き生きと過ごされるよう工夫をしています。日ごろから能力が発揮できるよう工夫、興味や笑顔が増えています。  
 ・ホーム内清潔、安全、安心が守れるように利用者様の見守り観察介護をしています。  
 ・週に1~2回体調の悪い方以外はドライブを楽しみ、外界とふれあいながら集団で行動することで、緊急時入居者さん同士助け合いの気持ちが養われ自然に生まれてきています。  
 ・自室に帰ることなく、何時も居間で全員が寛いでいます。会話や笑顔も沢山見られています。  
 ・チームワークづくりに励み、より良い介護が出来るよう日常的に情報の共有に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR発寒中央駅から徒歩圏の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。近くには昔ながらの商店街や神社、公園、学校、消防署、スーパーなどがあり恵まれた生活環境である。建物内は清潔で、利用者の写真や作品、利用者と職員が作成した季節の装飾などがふんだんに飾られ、楽しい雰囲気を作っている。町内会との結びつきが強く、敬老会や日帰り旅行に利用者と共に参加したり、事業所として班長を継続的に務め、地域のお年寄りの相談を受けたり講習会を開いている。利用者は、音楽療法や折り紙教室など多くの楽しみごとがあり、体操や外出なども行って生き生きと過ごし、職員との会話が多く表情も明るい。運営推進会議に多くの家族の参加を得るとともに、年1回アンケートを実施し意見を運営や利用者への対応に反映している。ホーム便り利用者ごとのお手紙でも詳しく情報を提供している。また、職員同士のチームワークが優れ、意見が言いやすく働きやすい環境となっている。職員の内部研修や外部研修に力を入れ、更なる研修の充実も目指している。管理者は、職員の育成に力を入れるとともに、看護師や調理師の資格を持ち、お正月やクリスマスに利用者全員におせち料理やオードブルを振る舞ったり、個々の誕生会にケーキを作って祝いし、喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(1階しらかば館 アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階しらかば館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと自由にありのままに」の理念を職員全員に入社時に伝え、定期的にカンファレンス時に全員で確認し、常にホームの入り口の全員が見える場所に掲げ共有実践している。	「ゆったりと自由にありのままに」を基本理念とし、事業所の目的に「住み慣れた地域で、人間の尊厳を大切に」内容を掲げている。理念を共用部分に掲示したり、カードにして携帯し、カンファレンスの際に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の春や秋の清掃や、敬老会への全員参加、町内の班長などを連続的に引き受け、近隣の方と日常的に声かけ合い交流しています。毎月回覧板に「サテラ新聞」を掲載して貰っている。夏の散歩時の声かけなど気軽にお話している。	近くの神社の春と秋のお祭りに参加したり、地域の敬老会に全員で出席している。音楽療法や折り紙講習、中学生の職業体験などの訪問も受けている。町内会で継続して班長となり、地域のお年寄りの相談を随時受け付けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月回覧板に「サテラ新聞」を掲載して貰い、町内の人々に読んでもらうことで認知症への理解を頂いたり、認知症についての講習会開催、近隣の高齢者の見回りや、認知症のお年寄りを抱えているご家族の相談支援をすることで、地域貢献をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の職員さん町内会の役員さん、ご家族の皆さんに全体のサービスの状況、取り組みなど報告、その都度、活発な意見を頂きサービスの改善と向上に取り組んでいる。町内会の皆様がとても協力的でホームの活性化に協力してくれる。	運営推進会議は2か月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、複数の家族、利用者の参加を得て、介護講習を行ったり、町内行事や権利擁護、外部評価などをテーマに意見交換している。会議の内容をお便りに記し家族に知らせている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市管理者会議、西区管理者会議に出席し情報交換したり、町内の班長を何年か続けて受け、町内会議に出席し多くの情報を頂き、役立てています。	運営推進会議に地域包括支援センターの参加があり、情報提供を受けている。市や区の管理者会議にも参加し、行政担当者と情報交換している。相談事があれば代表者が役所に出かけて相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	北海道高齢者虐待禁止の講習を受けたり、ホーム内での勉強会を開き、具体的な行為について職員と話し合い、正しく理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記した身体拘束マニュアルを用意し、定期的に内部研修を行っている。玄関は日中は施錠しておらず、事務所は玄関横にあり、またユニットから玄関への扉に鈴をつけているため外出があれば分かるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議やホーム内で高齢者虐待防止についての勉強会を開くなど、事業所内で常に討議し話し合いを持ち防止に努めている。		

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階しらかば館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの方を講師に迎え講習会開催、ホーム内で必要性があれば活用できるよう制度の理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前利用者契約書、重要事項の説明をし、不安点や疑問点について十分な説明をし納得理解して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情窓口を設けています。又、契約書に社会福祉協議会ないの運営適正委員会や国保連、社会福祉協議会苦情窓口を記載して契約時に説明し渡しています。	運営推進会議に多くの家族の参加があり、会議で意見を得るほか、年1回アンケートを実施し、意見を運営に反映している。また、ホーム便りと利用者ごとのお手紙を毎月家族に送付し、情報を詳しく提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時はもちろん、日常的に希望や意見や提案を聞き、討議し反映させています。	月1回のカンファレンスで運営に関する話し合いも行われ、職員は活発に意見交換している。管理者は職員と随時個別の話し合いの場を設けている。職員は防災や行事、お便りづくり、日用品管理などを交替で担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を常に見守り、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って職場環境に改善・条件の整備など、不平等にならないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や、経験に合わせた研修参加を進め法人内外の研修を受講。働きながらトレーニングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者が必ず夏のイベントやクリスマスの参加、その他相談、指導を受け、定期的に連絡を取り合い、他ホームの勉強会、催しものに参加して頂き感想や意見交換をし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階しらかば館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、事前に管理者や主任が面会に出向行ったり、直接ご本人に来訪して頂き、現在の状態や、生活層を聴取し今困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さんにホーム全体の雰囲気を見て頂き、現在困っていること、入居に関して不安なこと、要望等を聴取し、希望に沿った介護計画を話し合い、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、デイや病院等から入居される方は、現在の身体状況や病気の状態を確認把握、家族等から今の状況を詳しく聞き、整理した上、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に介護される立場の気持ちを忘れず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、多忙なご家族の代わりに、面会などで耳にする家族の気持ちや言葉を、毎日本人に伝えることで、家族への絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族に聞き、ドライブコースや散歩コースに取り入れたり、馴染みの方にはご家族の了解を得て、ホームに来て頂き楽しい時間を過ごして頂くなどの支援をして、関係が途切れないよう努めている。	友人や知人が来訪する利用者は減っているが、書道などの趣味を継続できるように支援している。発寒神社や白い恋人パーク、道庁の喫茶店、住んでいた場所の近所、大型スーパーなど馴染みの場所や希望の場所への外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立にしないように、気の合う方同士、お話が進むように援助したり、ドライブなど、野外に集団で外出することで、支え合い助け合う行動見られる支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階しらかば館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去になられた方については、お見舞いを繰り返したり、良くなって退去なされた方には、デイサービスや、不調時の電話での相談、病院通院のお手伝いなど本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握し、ご本人の状況を踏まえ、スタッフ全員で検討し、希望にそうように努めている。困難な場合もあるが、なるべくご本人の意向に近づくような支援をしている。	思いや希望を表出できる方は半分程度で、難しい方の場合も反応や表情から意向を把握している。また、センター方式のアセスメントシートの一部ページや課題分析シートを作成しているが、生活歴などの情報が少ない利用者も見られる。	利用開始後に得られた本人の生活歴や家族などの情報について適宜シートに追加し、充実することを期待したい。また、課題分析シートについても追加記入や定期的な更新を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方サービス利用など、入居時に聞きいたり、ご家族や友人の面会時に面会簿に記載して頂くなど、新しい情報を得ながら経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌、生活日誌、朝夕の申し送り、職員同士の連絡ノート(身体、日常)により共有することで、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、をスタッフ全員で把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者が毎月モニタリング作成、ケアマネや管理者、ご家族の言葉、定期的な医師の往診時の指導を元にカンファレンスで検討し、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3か月毎に見直し作成している。毎月の担当者によるモニタリングをもとにカンファレンスで職員の見を集約し、次の計画を作成している。介護日誌には計画目標に沿ったサービスの実施状況も記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は介護日誌にて、個別に記録に記入、職員間で情報は連絡ノートにて共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団生活ではありますが、利用者一人ひとりのニーズに合わせたサービスを心がけ、ご家族やご本人の意見や希望に合わせた柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達の協力が沢山得られるので、町内会の行事や、催しものに自然に参加、皆さんと同じように行動することをサポートすることで、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携を結んでいる医療機関があり、月2回訪問診療してもらい、事業所はもちろん、ご家族等の希望に応じて話し合いの機会を設けるなど、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関による2週間に1回の往診があり、その他に通院が必要な場合は事業所で送迎している。受診内容は「医療受診記録」に記録して情報を共有するとともに、家族への連絡内容を日誌に記載している。	

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階しらかば館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護で看護職員が健康チェック、利用者が適切な受診や看護を受けられるように相談指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と常に連絡を取り合い、緊急時や治療が必要な場合、安心して治療できるよう、情報交換や相談できる病院をもっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、医師やご家族と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合における(看取り)指針」を説明し、書類を取り交わしている。過去に看取りも経験しており、事業所としてできる範囲の支援を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問に野指導のもとで緊急マニュアルを見ながら勉強会を開き、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。その際、職員、ご家族地域住民も参加して頂き実行しています。地域の方々が率先して火災や地震、水害等の災害の協力体制を報告、確認してくれます。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防立会いと、地域の方の協力のもと行っている。職員の救急救命訓練も定期的に通講し、災害時に必要な備蓄品も準備している。地震等、火災以外の災害対応の確認については十分といえない。	地震や風水害等、火災以外の災害対応についてもマニュアルや手順書を作成し、対応方法を定期的に確認することを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の生活歴を理解し、人格の尊重に努めており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護や認知症の人の接し方等の対応マニュアルを各ユニットに備えたり、入職時に職員に配布している。利用者への声かけは丁寧である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いや希望を表したときは、職員はいくつかヒントや選択肢を並べ自己決定が簡単にできるように対応の仕方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、日頃から利用者様側に立ち考えて援助していますが、日々の作業に追われ職員側の都合意ならないよう工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔さを心がけ、好みが見える利用者さんには、自分で選んでもらい見守り援助、意思決定ができない方には似合う服装選びの支援をしている。		

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階しらかば館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員と一緒に食事をしています。準備等ではできる作業を利用者と職員と一緒にしています。、個人の好みを普段の会話から聞き、嗜好に合わせたメニューや季節にあったメニューを取り入れたり工夫しています。	献立はホーム長が作成し、定期的に協力医療機関の管理栄養士にカロリーの相談をしている。利用者は野菜の下拵えやのり巻きなど、調理にも参加している。お餅をついてお雑煮やお汁粉にしたり、お手製のおせち、オードブル、外食や出前など、多彩な食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム内の調理師により、バランスの取れのためにメニューに心がけています。年に1回程度発寒中央HP中法病院の栄養士さんにメニュー表に評価を頂き参考にして頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の義歯洗浄、歯磨きの見守り介助 訪問歯科診療にて定期的に口腔内の状態チェック、本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック、個々の排泄パターンを理解し誘導、習慣化することでトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者全員の排泄チェックで個々のサイクルを把握し、トイレでの排泄支援に努めている。夜間帯も時間を見て誘導を行っている。入居時にオムツを使用していたが、リハビリパンツに移行した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック、水分補給、適度な運動、食生活の工夫など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴の日程は決められていますが、季節(真夏時など)やご本人の希望時間など聞き、なるべく希望に合わせて支援しています。	毎日、午後からの時間帯で湯を沸かし、利用者一人につき週に2回の入浴を対応しているが、希望等により3回入る利用者もいる。入浴剤を使用したり、皮膚の状態によってはその都度、湯を張り替えて気持ち良く入れるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や体調の管理、チームで話し合いながら状況に応じ、日中に休息の時間を取り入れたり、適度な運動の指導など安心して気持ち良く眠れるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイル内に薬表をとじて確認理解しています。薬変更時は、口頭と朝夕のカンファレンス時に連絡、職員が共有する連絡ノートに記載するなど、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族のお話や、個人の生活歴の中から役割や楽しみを見出し実施。嗜好飲食、買い物を目的にしたドライブで気分転換の支援をしている。		

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階しらかば館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調にもよりますが、利用者の希望に沿ってできる限り外出しています。普段は軽く珈琲、ケーキなど希望で飲食に外出したり、夏はドライブや夏祭り、ビール祭り、散歩、雪祭り、町内の清掃活動、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	事業所の行事による外出のほか、他の高齢者施設の夏祭りや障がい者施設の五月祭、地区の敬老会、西区内のグループホームのイベント参加など、地域の人々と触れあう外出の機会が多い。利用者の身体機能に合わせ、グループに分けて全員が外出できるよう支援し、買い物、外食、ドライブスルーに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、お金を所持したり使えるように支援していますが、お金自体が理解できない方、直ぐ忘れてトラブルになる方もいます。個人に合わせた支援をします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さんと、知人とおたよりは殆どありません。個人の携帯電話のやり取りをする際の支援、ホームの電話を利用される際の援助は常にしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔を保ち居心地のよい共用空間づくり玄関、階段フロアーには皆さんの作品を飾り、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所内は清掃が行き届き、全体的に明るく清潔感がある。居間兼食堂につながる小上がりに季節の飾り付けがなされ、行事写真の掲示も工夫し、目を引くものとなっている。ユニット内側の入口付近に出入りの際など一休みできる椅子を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にはソファや個別の椅子、畳みのお部屋などがあり、思い思いの過ごし方ができるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人を交え家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを自宅から持って来て頂き、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室入口には本人の写真や表札を飾り、自室と分かるようにしている。天井づけの収納設備があつてレイアウトに余裕があり、馴染みの家具や調度品を自由に持ち込んでいる。窓に鉢植えを置いたり、趣味の手芸道具も配置し、その人らしい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内部には安全かつ自立生活ができるよう数々の手すりを設置したり、個人のお部屋やトイレの場所が直ぐ解かるように工夫するなど、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401095		
法人名	サテラホーム有限会社		
事業所名	グループホームサテラホーム		
所在地	北海道札幌市西区発寒11条4丁目5—1		
自己評価作成日	平成26年2月2日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170401095-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170401095-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日が穏やかで安心、安全に過ごして頂けるように、利用者様一人一人への細かい配慮、観察に努め介護している。能力が発揮できるよう季節の飾りの工作や縫い物(24時間テレビ協賛のフリーマーケットに小物)を出展するなど工夫、興味や笑顔が増えています・全員が女性のフロアーなので、季節の行事(夏ビール祭り・冬雪祭り)に参加、ドライブや買い物にでかけています。外出したことを直ぐ忘れませんが、その日1日気分が晴れやかになり笑顔が生まれます。

・チームワークづくりに励み、より良い介護が出来るよう職員間の挨拶や声かけ、伝達に力を入れ情報の共有をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階あかしあ館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階あかしあ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと自由にありのままに」の理念を職員全員に入社時に伝え、定期的にカンファレンス時に全員で確認し、常にホームの入り口の全員が見える場所に掲げ共有実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の春や秋の清掃や敬老会へ全員参加、散歩中に気軽に庭先でお花を頂いたり、町内の班長を連続的に引き受け、近隣と日常的に交流しています。毎月回覧板に「サテラ新聞」を掲載して貰っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月回覧板に「サテラ新聞」を掲載して町内全員に見てもらっています。町内の人々に読んでもらうことで認知症への理解を頂いたり、ホーム独自で町内の婦人の依頼を受け認知症の講習会を開催したり、近隣の高齢者の見回りや相談支援をすることで、地域貢献をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の職員さん町内会の役員さん、ご家族の皆さんに全体のサービスの状況、取り組みなど報告、その都度活発な意見を頂きサービスの改善と向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市管理者会議、西区管理者会議に出席し情報交換したり、町内の班長を何年も続け町内会議に出席し多くの情報を頂き役立てています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	北海道高齢者虐待禁止の講習を受けたり、ホーム内での勉強会を開き具体的な行為について職員と話し合いながら正しく理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議やホーム全体で高齢者虐待防止についての勉強会を開くなど、事業所内で常に討議話し合いを持ち防止に努めている。		

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階あかしあ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括さんの職員さんに講師になって頂き、勉強会を開催、ホーム内で必要性があれば活用できるよう制度の理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者契約書、重要事項の説明をし、不安点や疑問点については十分な説明をし納得、理解して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情窓口を設けています。又、契約書に社会福祉協議会ないの運営適正委員会や国保連、社会福祉協議会苦情窓口を記載して契約時に説明し渡しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時はもちろん、日常的に希望や意見や提案を聞き討議し反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を常に見守り、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って職場環境に改善・条件の整備など、不平等にならないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や、経験に合わせた研修参加を進め法人内外の研修を受講。働きながらトレーニングを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの交流を普段からしている。定期的に連絡を取り合い、ホームの勉強会や催しものに参加して頂き感想や意見交換をし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階あかしあ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、何度か管理者や主任が面会に出向いたり、ご本人に来訪して頂き現在の状態や生活暦を聴取し、今現在困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さんにホーム全体の雰囲気を見て頂き、現在困っていること、入居に関して不安なこと、要望等を聴取し、希望に沿った介護計画を話し合いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、デイや病院等から入居される方は、現在の身体状況や病気の状態を確認把握し家族等から今の状況を詳しく聞くなど整理した上、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんの立場の気持ちを忘れず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、多忙なご家族の代わりに、面会などで耳にする家族の気持ちや言葉を毎日本人に伝えることで、家族への絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者さんの希望を聞き、ドライブコースや散歩コースに取り入れたり、馴染みの方にはご家族の了解を得てホームに来て頂き楽しい時間を過ごして頂くなどの支援をして、関係が途切れないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんの性格を把握し、一人ひとりが孤立しないように、気の合う方同士、お話が進むように援助したり、ドライブなど、野外に集団で外出で助け合う行動が自然にできるよう継続支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階あかしあ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去になられた方については、お見舞いを繰り返したり、良くなって退去なされた方には、デイサービスや、不調時の電話での相談、病院通院のお手伝いなど本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握しご本人の状況を踏まえ、スタッフ全員で検討しながら希望にそうように努めている。困難な場合もあるが、なるべくご本人の意向に近づくような支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方サービス利用など、入居時に聞きいたり、面会時に尋ねることで新しい情報を得ながら経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌、生活日誌朝夕の申し送り、職員同士の連絡ノート(身体、日常)により共有することで、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、をスタッフ全員で把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者が毎月モニタリング作成、ケアマネや管理者、ご家族の言葉、定期的な医師の往診時の指導を元にカンファレンスで検討し、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は介護日誌にて、個別に記録に記入し職員間で情報は連絡ノートにて共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団生活ではありませんが、利用者一人ひとりのニーズに合わせたサービスを心がけ、ご家族やご本人の意見や希望に合わせた柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力が沢山得られるの地区です。町内会の行事や催しものに自然に参加、地域の皆さんと同じように行動することをサポートすることで、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携を結んでいる医療機関があり月2回訪問診療してもらい、事業所はもちろん、ご家族等の希望に応じて話し合いの機会を設けるなど、適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階あかしあ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護で健康チェック、利用者が適切な受診や看護を受けられるように相談指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と常に連絡を取り合い、緊急時や治療が必要な場合、安心して治療できるよう情報交換や相談できる病院をもっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から本人を交え家族と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、医師やご家族と共にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携を結んでいる医師によるAEDを使った講習や緊急マニュアルを見ながら勉強会を開き、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。その際、職員、ご家族地域住民も参加して頂き実行しています。地域の方々が率先して火災や地震、水害等の災害の協力体制を報告、確認してくれます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の生活暦を理解し人格の尊重に努めており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で思いや希望を表したときは、職員はいくつかヒントや選択肢を並べ自己決定が簡単にできるように対応の仕方を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔さを心がけ、好みがあはつきり解かる利用者さんには好みに合うように援助、意思決定ができない方には清潔で似合う服装選びの支援をしている。		

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階あかしあ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員と一緒に食事をしています。準備や食事、片付けを作業を利用者と職員が一緒に行っています。、普段の会話から嗜好品を聞いたり、季節にあったメニューを取り入れるなど食事の楽しみを工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム内の調理師により、バランスの取れたためにメニューに心がけています。年に1回程度発寒中央HP中央病院の栄養士さん評価を頂き参考にして頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日に食後の義歯洗浄、歯磨きの見守り介助訪問歯科診療にて、定期的に口腔内の状態チェックし本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック、個々の排泄パターンを理解して誘導を習慣化しトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック、水分補給と適度な運動の援助、食生活を工夫しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日程はある程度決められていますが、入浴時の声かけでご本人の希望時間や都合など聞き、なるべく希望に合わせて支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や体調の管理などチームで話し合いながら状況に応じた、日中に休息の時間を取り入れたり、適度な運動を援助し安心して良眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイル内に薬表をとじ、確認理解しています。薬変更時は、口頭と朝夕の申し送り時に連絡、職員が共有する連絡ノートに記載するなど、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族のお話や、個人の生活歴の中から役割と楽しみを見出し実施。嗜好飲食、買い物を目的としたドライブで気分転換の支援をしている。		

グループホーム サテラホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階あかしあ館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調にもよりますが、利用者の希望に沿って、できる限り外出しています。飲食や、買い物、夏はドライブや夏祭り、散歩、雪祭り、町内会の敬老会参加など、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には、お金を所持したり使えるように支援していますが、お金自体が理解できない方、直ぐ忘れてトラブルになる方もいます。個人に合わせた支援をします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さんと個人の携帯電話のやり取りをする際の支援、ホームの電話を利用される際の援助。ご家族、知人の方の来訪はありますがお手紙はありません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔を保ち居心地のよい共用空間づくり、玄関や階段、廊下の壁には皆さんの作品を飾り、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にはソファや個別の椅子、畳みのお部屋などがあり、思い思いの過ごし方ができるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、昔からそばに置いてた物や慣れ親しんだ物品、お仏壇などを自宅から持参して頂き本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内や廊下には安全かつ自立生活ができるよう数々の手すりを設置したり、個人のお部屋やトイレの場所が直ぐ解かるように工夫するなど、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム サテラホーム

作成日：平成 26年 3月 5日

市町村受理日：平成 26年 3月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居者様のアセスメント内容、生活暦の内容にムラがある。(入居時本人や家族さんがまるで解からなくて聴き取りができない利用者さんが多い)刻々と変化していく現状にあったサービスができるようなアセスメントの内容になっているか？	これまでの生活暦なじみの暮らし方、現状を改めて知ることに努力することで、利用者さんの変化にあったサービスが提供できる。	10日以内に受け持ちの利用者さんのアセスメントのやり直しや昔のお話、会話の中から聴き取ったり、面会時に記入して頂く、面会簿のご家族の声の覧を参考にしたり、本人との会話の中から聞き取り、スタッフ会議で討議検討する。(今後も常に継続していく)	10日間
2	35	火災予防については年に2回定期的に施行していましたが、地震対策マニュアルができていなかった。	自ホームにあったマニュアルを作成しスタッフ全員で共有し安全が守れる。	インターネットやもよりの消防署に行き資料を集め、自ホームにあったマニュアル作成、防火訓練とともに地震対策訓練をする。	10日間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。